

| | | | | |
|------|------|----------------|---|-----|
| 科目名称 | 薬理学 | 学年学期 | 単位数 | 時間数 |
| | | 1 学年後期 | 1 | 30 |
| 担当教員 | 田中 守 | 授業に関わる 実務経験 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 (薬剤師) <input type="checkbox"/> 無 | |

【1】 授業概要

薬理学の基礎知識と薬物療法について学び、薬物療法を受ける患者の安全対策を学ぶ。

【2】 学習目標

1. 薬理学の基礎知識を理解し、医薬品の健康障害について理解できる。
2. 健康障害に対する薬物療法の作用機序、人体への影響について理解できる。
3. 薬物の管理、看護者の責任について理解できる。

【3】 第2看護学科ディプロマポリシーとの関連性

- 1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。
- 2. 人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。
- 3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理に基づいた看護実践をすることができる。
- 4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。
- 5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種の連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。
- 6. 松山市および愛媛県周辺の地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる。
- 7. 自己の資質向上のため、看護に対する探究心・向上心をもち、主体的に学び続けることができる。

【4】 授業計画

| | 内容 | 主な授業形態 |
|----|---|---------|
| 1 | 代表的な薬物の投与経路・剤型、副作用を理解できる。 | 講義・小テスト |
| 2 | 薬物体内動態、相互作用・个体差、薬と法律を理解できる。 | 講義・小テスト |
| 3 | 抗感染薬の作用、抗菌スペクトル、薬理作用、副作用を理解できる。 | 講義・小テスト |
| 4 | がん治療薬の特徴、薬理作用、副作用を理解できる。 | 講義・小テスト |
| 5 | 免疫治療薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬の特徴、薬理作用、副作用を理解できる。 | 講義・小テスト |
| 6 | 末梢での神経活動に作用する薬物の特徴、薬理作用、副作用を理解できる。 | 講義・小テスト |
| 7 | 中枢神経系に作用する薬(1)での特徴、薬理作用、副作用を理解できる。 | 講義・小テスト |
| 8 | 中枢神経系に作用する薬(2)での特徴、薬理作用、副作用を理解できる。 | 講義・小テスト |
| 9 | 循環器系に作用する薬物(1)での特徴、薬理作用、副作用を理解できる。 | 講義・小テスト |
| 10 | 循環器系に作用する薬物(2)での特徴、薬理作用、副作用を理解できる。 | 講義・小テスト |
| 11 | 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物での特徴、薬理作用、副作用を理解できる。 | 講義・小テスト |
| 12 | 物質代謝に作用する薬物での特徴、薬理作用、副作用を理解できる。 | 講義・小テスト |
| 13 | 皮膚科用薬・眼科用薬、救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬に用いられる薬物での特徴、薬理作用、副作用を理解できる。 | 講義・小テスト |
| 14 | 輸液製剤・輸血製剤、看護業務に必要な薬の知識を理解できる。 | 講義・小テスト |
| 15 | 筆記試験 | |

【5】 評価方法

毎回の講義中に行う小テストの結果(下記)は、授業態度及び最終評価テストに加点して、総合評価とする。

(小テストは 6-7 割の正解で 1 点を得点)(小テストは 8 割の正解で 1.5 点を得点)

(小テストは 9 割以上の正解で 2 点を得点)

小テスト+授業態度+最終評価テスト=満点 100 (小数点以下は切り上げ)

【6】 教科書

吉岡充弘:系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学(第 15 版) 医学書院 2026

【7】 参考書

【8】 受講生へのメッセージ

1. 配布プリントと教科書を参照し予習・復習しておくこと。
2. 講義後の小テストは主に配布プリントから出題する。
3. 欠席等により講義の配布プリントが手元がない場合は、担当教員に申し出し、自己の責任において準備すること。